

相談支援員養成研修会[後期]
アウトリーチ

一般社団法人インクルージョンネットよこはま
理事 鈴木晶子(臨床心理士)



+ アウトリーチとは？

- 「積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること」(「自立相談支援事業従事者養成研修テキスト」より)
- 「生活上の課題を抱えながらも自ら援助にアクセスできない個人や家族に対し、家庭や学校等への訪問支援、当事者が出向きやすい場所での相談会の開催、地域におけるニーズ発見の場や関係づくりなどにより、支援につながるよう積極的に働きかける取組のこと」(HIT『生活困窮者支援体系に資する調査・研究事業報告書:生活困窮者自立促進(社会参加)プロセス構築モデル事業統括委員会報告』)
- →さまざまな形で、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけに留まらない。



+ アウトリーチの目的

発見（対象把握）のためのアウトリーチ

アセスメントのためのアウトリーチ

支援のためのアウトリーチ

地域づくりのためのアウトリーチ



+ 発見のためのアウトリーチ

- 生活困窮者は自らSOSを発することが難しい場合も多い。
- そのため積極的に対象者を発見するための「アウトリーチ」が必要
- なるべく早期に発見できることが望ましい。

経路	方策
①行政機関からの紹介	<ul style="list-style-type: none">• 行政機関内部での連携• 委託の場合行政からの紹介ルールの確立
②行政以外の関係機関からの紹介	<ul style="list-style-type: none">• 関係機関との連携
③出張・巡回など	<ul style="list-style-type: none">• 本人からのアクセスを容易にするための工夫。方策
④電話・来所による相談	



+

Group Work1: アウトリーチが必要な状態像

地域の中で届いていない人とは？

- ・「ひきこもり」など、具体的な状態像をなるべく沢山あげてみよう。

付箋に一つずつ書いて、模造紙に貼っていく。

時間：10分



+ 発見のためのアウトリーチ例(1) 滋賀県野洲市の例

行政が持つ「生活困窮状態のサイン」
についての情報を活用

- 対象者の早期把握のため、税・保険料や公共料金の担当と連携し、気になる生活困窮者が自立相談支援事業につながるよう紹介ルールを設定。

サインは既にたくさんある。
それを活用する体制作り。



+ 発見のためのアウトリーチ例(2) 高校への交流相談型アウトリーチ

貧困生徒の通う
“課題集中校”



専門性のある
“外部相談員”

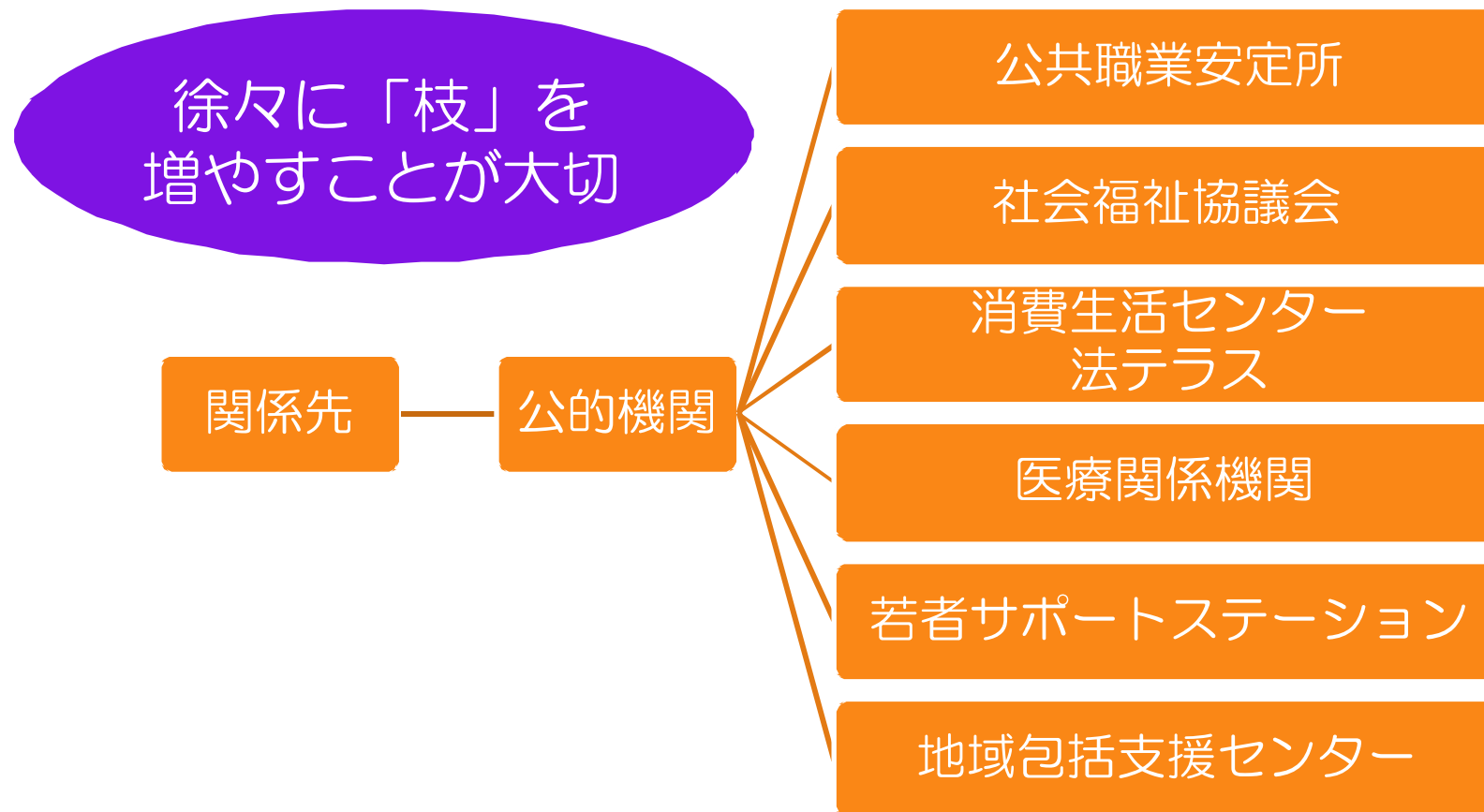
- 地域の専門機関から学校に専門家がアウトリーチ。
- 相談する意識のない生徒たちと、自然に日常を過ごしながら、ニーズ発見と関係作りを行い、潜在的に支援が必要な生徒が相談をするようになる。



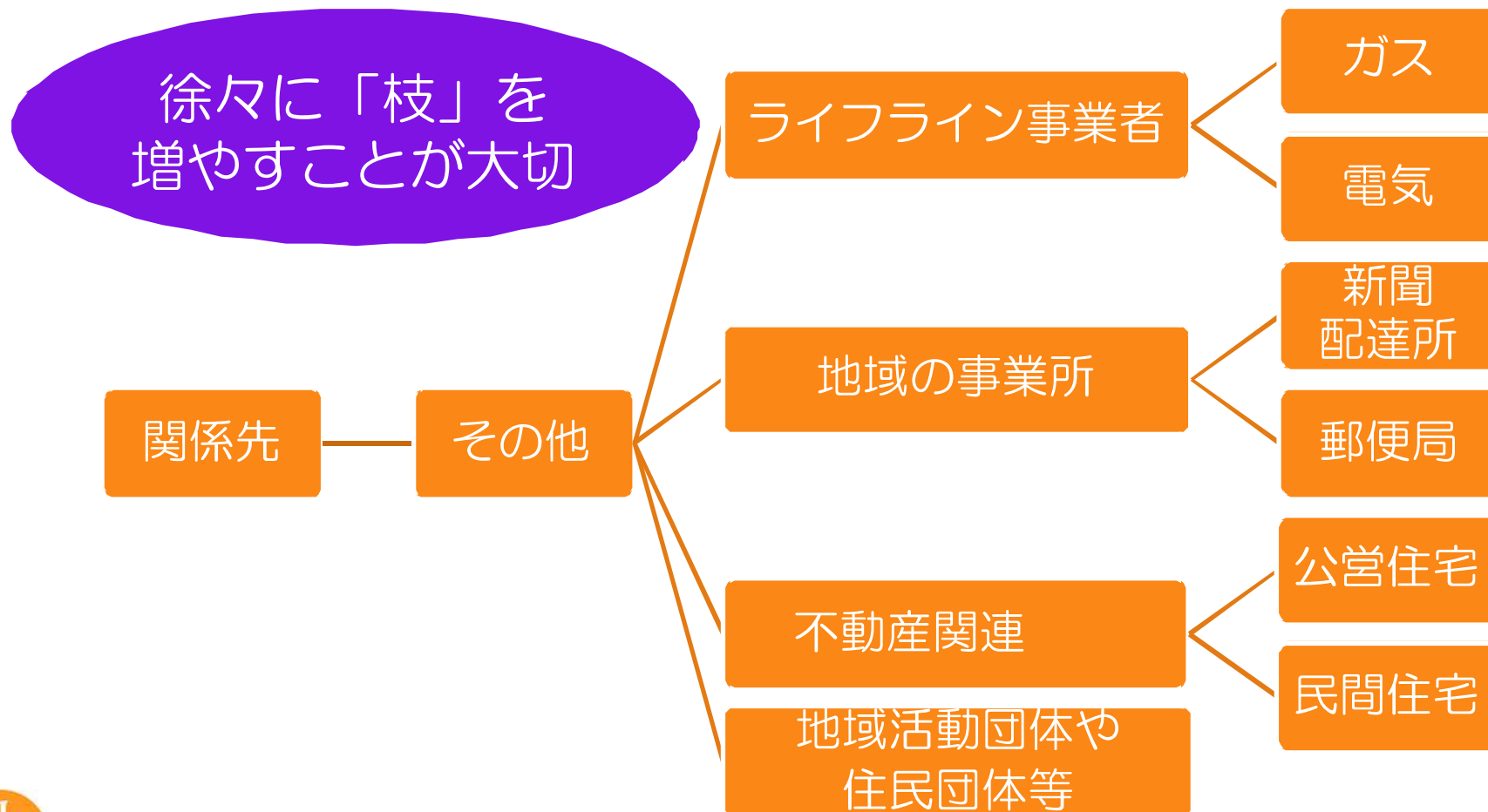
+

想定される連携先(1)

公的サービスを提供する関係機関例



+ 想定される連携先(2) その他関係機関・団体等例



+ アセスメントのためのアウトリーチ

本人の来所時の相談だけでは見えて来ない情報を得る、情報をつなげるために積極的に出向いていく。

- 自宅に出向くことで暮らしの様子が分かる
- 関係機関・関係者と情報共有することで情報がつながる。立体的に本人を理解できる

同行を行う中で、本人の様子が観察できる。

- 一対一（あるいは複数）の相談場面だけでは見えない本人の様子が見える。集団場面、日常場面、etc…。
- その他の情報と合わせて本人を理解する



+ 支援のためのアウトリーチ(1)

支援を不要だと拒んでいる方へ

- 「困り感」を感じていない、感じにくい状況にある
- 改善すると思えない、諦めている
- 支援者や社会に対する不信 etc…

心身の不調・障害等で来所することが難しい方へ

- 身体障害があり外出が難しい
- 体調が悪く、外出が難しい
- 精神疾患があり公共交通機関を使うのが難しい
- 対人不安・恐怖があり、人が多いところに出てくるのが難しい



+ 支援のためのアウトリーチ(2)

継続支援をしていたが、現在支援が途切れている方へ

- 相談がキャンセルになったまま来ていない
- 音信不通になってしまった
- 「困ったら来てください」と言ったまま、その後確認していない
就職していったが、その後が心配… etc…

入院中や施設入所中で、来所が難しい方へ

その他様々な事由で来所が難しい方へ

- 本人の状況、地域の特性を考えながら来所が難しい方には柔軟に
アウトリーチが必要になる



+ 地域づくりのためのアウトリーチ(1)

風通しがよく情報がつながる

地域づくりのためにアウトリーチ

- 地域に横串をさして、役立つ情報やアイデアを共有する
- 地域で困っている住民をみんなで見守り、必要な支援につなげるネットワークを組む
- 地域づくりのためのアウトリーチ戦略を事業の中で意識的に練っていく



+ 地域づくりのためのアウトリーチ(2)

出向く場はさまざま

- 公的機関へ
- 民間の支援機関・団体へ
- 地域住民・事業所、住民団体へ

出向く時もさまざま。

- 公的な連携会議や協議会のために
- ケースを通じた連携に
- 地域があつまるイベントに
- 時には用事がなくても顔を合わせに



+

Group Work2: 具体的に考えてみよう

所在不明の就学前児童について考えてみよう

- 1) どうやって発見するか？
- 2) どうやって支援につなげるか？
- 3) どうやってつながり続けるか？

ワークシートに各班毎に記入。

時間: 20分

